



# 市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ 市立小中学生に1人1台パソコンを配備します

昨年11月に発表したデジタル変革宣言の具現化の1つとして、同時に、文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」を受け、令和2年度から5年度にかけて、児童・生徒に1人1台の学習用パソコン(PC)を整備してまいります。Society5.0時代を生きる子どもたちが未来の島田を、そして日本を担う人材となるよう、全ての子どもが等しく学べる環境を整えてまいります。

2月補正予算では、クラス全員が一度にアクセスしても利用可能な、高速大容量通信ネットワークを各教室に整備する費用として7億4,445万円(国2分の1補助)を計上しました。PCの整備費用については、市で必要な台数(約7,500台)の3分の2まで、国が1台あたり4.5万円を補助し、残り3分の1は交付税措置がなされます。

ひと昔前の授業は、先生が板書して、子どもたちはそれを書き写すという一斉学習でした。活発に発表する子どもがいる一方、よく分からない子どもは取り残され感がありました。現在は、単なる知識習得の学習ではなく主体的・対話的で深い学びを実現するアクティブ・ラーニングが重視され、国語の授業でも、子どもたちは活発に教室内を動き回り、友だちとコミュニケーションをとっています。PC1人1人体制をめざすGIGAスクール構想は、こうした手法に最適な環境であり、「国際的な学力テスト(PISA)」で遅れをとった読解力の向上にもつながるのでは、と期待しています。高速通信ネットワークと1人1台PCの環境があれば、先生はすべての子どもとそこで答え合わせができ、習熟度をチェックしながら授業の速度を調整できます。分からない子どもを、分からないまま

で終わらせません。一斉学習から、だれ1人取り残されない21世紀型の学習へ、「GIGAスクール構想」の主眼点がここにあります。先日私も、1人1台PC授業に参加し、教育手法が劇的に変わると実感しました。

グローバル化が進み、複雑で変化の激しい社会において、子どもたちは自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して行動し、それぞれに思い描く未来を実現するための「生きる力」を身に付ける必要があります。新年度からは、小学校のプログラミング教育も必修化されます。PCなどの教育環境を整えることで皆さまの期待に応えることができると考えます。

とはいえ、1人1台PC構想にも課題はあります。何より、教材や授業の進め方に変化が求められます。ハード&ソフトが備わっても、実際に教壇に立つ教師がICTを使いこなせなければ意味がありません。指導体制の強化が待たなして求められると同時に、教師の多忙化に繋がらないかどうか懸念されます。文部科学省は、各地域における指導者養成研修の実施、ICT活用教育アドバイザーの任命および全国での説明会・ワークショップの開催、企業などの外部人材をICT支援員として活用するなどの対策を打ち出し、教師の指導力の向上に力を入れています。親の立場からも、漢字学習などがPCのできるのか、子どもがカバンを投げて端末が壊れたら修理代は誰が負担するのかなど、ご心配があると思います。

課題を1つ1つ解決しながら、ハードやソフトそして教職員と、あらゆる角度から島田市の教育のICT化を進めていく、その強い意欲をお伝えして今月号のまとめとします。

## みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

**静** 岡山コミュニティづくり推進協議会が主催する「令和元年度コミュニティ活動賞」において、KAWANE LOVE'S FACTORYが優良賞を受賞しました。この賞は、コミュニティ活動を活発に行っている県下各地域の組織・団体を対象に活動レポートを募集し、優れたものを表彰するもので、今年度は13団体が応募。優良賞は私たちを含めて5団体に贈られました。

私たちの団体は、平成26年に発足。会員は38人で、主

に子育て世代の男性が中心となり「かわねこどもまつり」の開催や「大井川横断こいのぼり」の活動をしています。「地元からもらった川根愛を子どもたちにリレーする!」を目標に、地域をより盛り上げていきたいです。



(KAWANE LOVE'S FACTORY 代表 兒玉雅人)